

## 大塚謙一先生をおくる・略歴・業績目録

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学地球科学教室 公開日: 2013-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小山, 真人 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007128">https://doi.org/10.14945/00007128</a>



大塚謙一



## 大塚謙一先生をおくる

大塚謙一先生が、2012年3月末をもって静岡大学を定年退職されることになりました。大塚先生は、1973年10月に理学部助手として赴任され、1988年4月に教育学部助教授に転任された後、今日まで静岡大学の地球科学ならびに環境科学の教育・研究に献身的な努力を注いでこられました。

理学部においては、当時日本で唯一の海洋地質学講座の助手として数多くの学生実習・実験を担当され、多数の人材を育てられました。この頃、私は理学部の一学生として大塚先生の実験の授業を受講し、生まれて初めて堆積岩の薄片を観察させて頂いたことをよく覚えています。

その後、大塚先生は教育学部に転任され、当初は教員養成課程の理科教育専攻と総合教育課程の自然環境教育コース、1998年度の学部改組後には学校教育教員養成課程の理科教育専攻と環境教育専攻を担当され、多数の授業をこなされるとともに、数多くの学生の卒業論文・修士論文を指導されました。とくに環境教育専攻においては、その設立過程から深く関わり、理念や授業設計などの骨格作りの中心人物として活躍されました。

こうした中、大塚先生は、主として静岡県周辺の海底・湖底を対象とし、調査船や潜水艇の探査データ・採取試料の分析を通じた地形・地質や環境変動についてのご研究も続けられ、貴重な成果を挙げられました。また一方で、環境教育・理科教育の社会への普及にも努められ、数々の著作を執筆されるとともに、県内各地での多数の講演会・講習会や出前授業を担当されました。

私は1991年4月から大塚先生の同僚として、そうしたご活躍を目の当たりにしてきました。特に、ともすればあいまいさの残る妥協や先送りで済まされがちな学内のさまざまな事柄に対し、大塚先生が執拗なこだわりや信念を貫かれる姿には、たびたび感銘を受けてきました。教育学部の地学教育・環境教育は、大塚先生のそうした献身的な努力によって支えられてきたと言っても過言ではないと思います。

残念ながら大学の人事状況においては、大塚先生の後任を補充する目処は現在のところたっておりません。かつては教員4名の陣容を誇った教育学部地学小講座は、ついにその半数の2名という厳しい時代を迎えてしまいます。それゆえ、まだしばらくは大塚先生に非常勤講師として授業のお手伝いをお願いしなければならない状況ですが、今後の大学外での一層のご活躍もお祈りしつつ、お別れの言葉とさせて頂きたいと存じます。

2012年3月末日

静岡大学教育学部  
小山真人

# 大塚謙一先生の略歴

## 履 歴

- 昭和44（1969）年 3月 東京大学理学部地学科地質学鉱物学課程卒業  
47（1972）年 3月 東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程修士課程修了  
48（1973）年 9月 東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程博士課程中退  
48（1973）年 10月 静岡大学理学部助手  
59（1984）年 3月 理学博士（東京大学）「相模トラフ北端域および駿河トラフ北端域の上部第四系の地質構造」  
63（1988）年 4月 静岡大学教育学部助教授  
平成13（2001）年 4月 静岡大学教育学部教授  
24（2012）年 3月 静岡大学教育学部定年退職

## 学内における活動

- 平成3（1991）年 4月～平成4（1992）年 3月 教育学部予算委員会委員長  
平成11（1999）年 4月～平成20（2008）年 3月 教育学部環境教育教室代表（一部断続）  
平成15（2003）年 4月～平成16（2004）年 3月 教育学部就職委員長  
平成18（2006）年 4月～平成19（2007）年 3月 教育学部広報委員長

## 所属学会

日本地質学会，静岡県地学会

## 学会における活動

- 平成4（1992）年  
第29回万国地質学会（京都）「深海および海溝の碎屑性堆積物」コンビナー

## 社会における活動等

- 平成10（1998）年  
静岡県民カレッジ講師「駿河湾とその環境」  
平成10（1998）年  
富士市西部ブロック公民館事業講師「駿河湾講座」  
平成21（2009）年  
静岡大学・読売新聞社共同企画「人間と環境の現在と未来—21世紀の日本を開く」公開講座講師  
平成21（2009）年  
静岡市温暖化対策協議会顧問

## 海外出張等

昭和56（1981）年6月1日～7月28日

国際深海掘削計画（Deep Sea Drilling Project）におけるグローマーチャレンジャー号の第80次研究航海乗船

# 業績目録

## 著書

- 大塚謙一 (1974), 沿岸地域の底質と地質 相模湾, 駿河湾, 遠州灘. 静岡県の地質 (土 隆一編), 静岡県, 117-124.
- 大塚謙一 (1976), 粒子の沈降速度と級化成層 (グレイデッドベディング). 東海自然歩道の地学案内—朝霧高原から鳳来寺山まで— (静岡県地学会編), 黒船印刷株式会社, 静岡県, 73.
- 大塚謙一 (1976), 久能尾から蔵田まで. 東海自然歩道の地学案内—朝霧高原から鳳来寺山まで— (静岡県地学会編), 黒船印刷株式会社, 静岡県, 104-112.
- 大塚謙一 (1976), 蔵田から家山まで. 東海自然歩道の地学案内—朝霧高原から鳳来寺山まで— (静岡県地学会編), 黒船印刷株式会社, 静岡県, 114-121.
- 大塚謙一 (1986), ちがくの広場1 マグマの性質と火山. えんそくの地学—静岡県の地学案内— (静岡県地学会編), 黒船印刷株式会社, 静岡県, 23.
- 大塚謙一 (1986), ちがくの広場2 駿河湾・相模湾. えんそくの地学—静岡県の地学案内— (静岡県地学会編), 黒船印刷株式会社, 静岡県, 37.
- 大塚謙一責任編集, 静岡県地学会編 (1996), 大地見てあるき 続えんそくの地学—静岡県の地学案内—. 黒船印刷株式会社, 静岡県, 291p.

## 論文等

- 大塚謙一・加賀美英雄・本座栄一・那須紀幸・小林見吉 (1973), 相模湾の海底地すべりと乱泥流. 海洋科学, **5**, 4-20.
- 大塚謙一 (1974), 走査型電子顕微鏡による岩石, 鉱物の微細な世界. 静岡地学, **28**, 2-4.
- 木宮一邦・大塚謙一 (1975), 時間雨量から見た集中豪雨の移動. 昭和49年7月豪雨災害報告, 40-41.
- 大塚謙一 (1975), 南伊豆地域の基盤岩石の変質と地震による斜面崩壊. 1974年伊豆半島沖地震災害調査報告書, 135-137.
- Otsuka K. (1975), Suspended matter in sea water. *Preliminary Report of the Hakuho Maru Cruise KH-72-2*, 135-137.
- 大塚謙一・木宮一邦 (1975), 南伊豆地域の基盤岩石の変質と地震による斜面崩壊. 静岡大学地球科学研究報告, **1**, 35-37.
- Otsuka K. (1976), Regional distribution of clay minerals in the sediments of Sagami Bay, Japan. *Reports of Faculty of Science, Shizuoka University*, **11**, 179-190.
- 大塚謙一 (1978), 1978年伊豆大島近海地震による見高入谷七廻り付近の地すべり群, 特に地質および地滑り面について. 1978年伊豆大島近海の地震による災害の総合的調査報告, 37-38.
- 徳山 明・岩橋 徹・木宮一邦・半田孝司・吉田鎮男・大塚謙一 (1978), 1978年伊豆大島近海地震に伴う震災の地質学的考察. 静岡大学地球科学研究報告, **3**, 45-64.
- 大塚謙一 (1979), 海底地すべりと海底電線切断事故. 予防時報, **119**, 10-12.
- 大塚謙一 (1980), 駿河湾における研究船淡青丸のKT-77-7およびKT-78-19次航海で採取されたピストンコア試料について. 静岡大学地球科学研究報告, **5**, 23-30.
- Graciansky P. C., Poag C. W., Cunningham R., Loubere P., Masson D. G., Mazzulo J. M., Montadert L., Mueller

- C., Otsuka K., Reynolds L. A., Siegal J., Snyder S. W., Townsend H. A., Vaos, S. P. & Waples D. (1982), Goban Spur is drilled. *Geotimes* May 1982, 23–25.
- 大塚謙一 (1982), 駿河湾石花海堆西側斜面の海底地すべり. 静岡大学地球科学研究報告, **7**, 87–95.
- Graciansky P. C., Poag C. W., Cunningham R., Loubere P., Masson D. G., Mazzulo J. M., Montadert L., Mueller C., Otsuka K., Reynolds L. A., Siegal J., Snyder S. W., Townsend H. A., Vaos S. P. & Waples D. (1985), The Goban Spur Transect; Geologic evolution of a sediment-starved passive continental margin. *Bulletin of the Geological Society of America*, **96**, 58–76.
- Graciansky P. C., Poag C. W., Cunningham R., Loubere P., Masson D. G., Mazzulo J. M., Montadert L., Mueller C., Otsuka K., Reynolds L. A., Siegal J., Snyder S. W., Townsend H. A., Vaos S. P. & Waples D. (1985), Site 548. *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project Leg 80*, 33–122.
- Graciansky P. C., Poag C. W., Cunningham R., Loubere P., Masson D. G., Mazzulo J. M., Montadert L., Mueller C., Otsuka K., Reynolds L. A., Siegal J., Snyder S. W., Townsend H. A., Vaos S. P. & Waples D. (1985), Site 549. *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project Leg 80*, 123–250.
- Graciansky P. C., Poag C. W., Cunningham R., Loubere P., Masson D. G., Mazzulo J. M., Montadert L., Mueller C., Otsuka K., Reynolds L. A., Siegal J., Snyder S. W., Townsend H. A., Vaos S. P. & Waples D. (1985), Site 550. *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project Leg 80*, 251–355.
- Graciansky P. C., Poag C. W., Cunningham R., Loubere P., Masson D. G., Mazzulo J. M., Montadert L., Mueller C., Otsuka K., Reynolds L. A., Siegal J., Snyder S. W., Townsend H. A., Vaos S. P. & Waples D. (1985), Site 551. *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project Leg 80*, 357–385.
- 岡田博有・Lallmand S.・大塚謙一・Labeyrie L. (1985), 日本海東縁の海底構造—新生海溝問題と関連して—. 静岡大学地球科学研究報告, **11**, 119–133.
- 大塚謙一 (1985), 活動的トラフの埋積過程と堆積相—相模トラフ北端域および駿河トラフ北端域の上部第四系—. 静岡大学地球科学研究報告, **11**, 57–117.
- Otsuka K. (1985), Silicified sediments and silica diagenesis in the Goban Spur area of the northeast Atlantic. *Initial Reports of the Deep Sea Drilling Project Leg 80*, 1081–1099.
- 大塚謙一・新妻信明 (1985), 駿河トラフの構造運動と堆積地質—松崎沖の駿河トラフ底および伊豆側斜面の潜航調査—. 海洋科学技術センター試験研究報告“しんかい2000”研究シンポジウム特集, **6**.
- 岡田博有・大塚謙一 (1986), 相模トラフ周辺の堆積環境—「しんかい2000」による三浦海底谷潜航調査. 海洋科学技術センター試験研究報告第2回“しんかい2000”研究シンポジウム特集, 11–20.
- Otsuka K. (1986), Sedimentary facies development and deformation of the trough wedge sediment layers of Tenryu submarine fan area. *Abstracts of Papers International KAIKO Conference on subduction zones*, 162–163.
- 大塚謙一 (1987), 東海型河川の河口砂礫洲—安倍川の例—. 静岡地学, **55**, 1–3.
- 大塚謙一 (1987), 駿河トラフ北端部, 富士川河口沖斜面の潜航調査. 海洋科学技術センター試験研究報告第3回“しんかい2000”研究シンポジウム特集, 1–14.
- 大塚謙一・木宮一邦 (1987), 堆積相から見た浜名湖の堆積過程と古環境. 静岡大学地球科学研究報告, **13**, 113–145.
- 里村幹夫・大塚謙一・新妻信明 (1987), 駿河トラフ中軸部における精密重力測定ならびにトラフ底と静岡側斜面の観察. 海洋科学技術センター試験研究報告第3回“しんかい2000”研究シンポジウム特集, 15–24.

- Otsuka K. & Guo X. (1988), Trench fill sediment thickness distribution pattern, fracture of Pacific Plate oceanic crust, and accretion history at the triple junction. *Preliminary Report of Hakuho Maru Cruise KH-86-5*, 246–250.
- Otsuka K. & Guo X. (1988), Facies difference between the axis floor and the slope basin sediments around Nankai Trough off Shikoku region and possibility of dispersed gas hydrate occurrence. *Preliminary Report of Hakuho Maru Cruise KH-86-5*, 256–261.
- Yin J. & Otsuka K. (1988), Clay mineral composition of the KH-86-5 samples collected from the Nankai Trough area. *Preliminary Report of Hakuho Maru Cruise KH-86-5*, 217–223.
- 新妻信明・大塚謙一・狩野謙一・和田秀樹・佐藤隆一・渋谷朝紀・竹内真司・吉田智治・大浦坂勝利 (1990), 駿河トラフにおけるプレート沈み込みの直視観察. 海洋科学技術センター試験研究報告第6回 “しんかい2000” 研究シンポジウム報告書, 261–276.
- 大塚謙一・新妻信明 (1991), 駿河トラフ収束境界陸側斜面の変形構造断面の観察— [しんかい2000] 第474潜航調査の結果. 海洋科学技術センター試験研究報告第7回 “しんかい2000” 研究シンポジウム報告書, 33–43.
- 大塚謙一 (1992), Pinフォトダイオードを使用した照度計キットによるX線ラジオグラフ・フィルムイメージンシトメーターの製作. 静岡大学地球研究報告, **18**, 103–109.
- 大塚謙一 (1999), 駿河トラフ収束境界域の第四紀地史についての新知見—収束境界火山群の存在とその年代について—. 静岡大学地球科学研究報告, **25**, 17–27.
- 大塚謙一 (2009), 社会と自然の関わりを知る～私たちの未来へ向けての環境教育. 読売新聞2009年12月11日.